

SSKS

VOL.137

結の実通信137号

特定非営利活動法人結の実

ご挨拶

理事長 小林 輝彦

猛暑もようやく落ち着き、毎日1万歩以上を目標にしているウォーキングも気持ちよく取り組むことができるようになりました。数年前、恐らく過労が原因と思われる高血圧が見られ（もともと高めなのですがこの時は医師もあきれの数値でした）、医師から「このままだと血管切れて倒れますよ」というニュアンスのアドバイスいただき、そこから食事や運動、睡眠、メンタルと健康に気をつけるようにしています。今はその時より平均して40～50数値が改善しました。

これは自分だけの問題ではないと改めて気づかされ、入居者の健康や生活、職員の健康や働き方にも気をつけるようにしています。入居者にとっても、職員にとっても安心して生活できる、安心して働くことが出来る環境が大切ですよ。

ふと、周りを見渡すと、私と同年代の皆さま、年上の皆さま、年下の皆さまそれぞれ色々気をつけていて、同じような話題（〇〇を毎日食べている、〇〇の数値が高いなど）で盛り上がることも多いです。健康な体でいることのありがたさを日々身に染みて感じています。

まな、ゆいの入居者も高齢化が進んでおり、先日還暦を迎えた入居者のお祝いをしました。もちろん高齢になり、色々な健康上の課題はありますが、皆笑顔で

毎日過ごしています。それが一番かなと思います。

入居者が65歳になり、介護保険を利用できるようになってからの生活についても考えています。何か結の実でできないかと、結の実の新規事業として共生型のデイサービス事業立ち上げを模索しているところです。加齢により働くことが難しくなった障がい者が、65歳前から利用できて、65歳過ぎてからも今までの仲間と一緒にそのまま利用できるような日中施設を作れないかと、まだ構想段階ではありますが、試行錯誤をしているところです。皆様もよい考えあればぜひ教えて下さい。

感染症委員会の開催

2024年度から障がい者グループホーム事業所で3ヵ月に1回感染症委員会を開催することが義務となりました。まなゆいでも6月と9月に開催しています。感染症の研修や訓練も義務化されたため、その内容や備蓄品の確認など、話し合う項目は思っていたよりも多かったです。9月には感染症の職員全体研修も開催しました。

これから寒くなると、様々な感染症が流行ってくる季節となります。委員会や研修を活かして、予防していきたいと思っています。

虐待防止研修受講

8月21日に、令和6年度東京都障害者虐待防止・権利擁護研修にサービス管理責任者として受講いたしました。受講項目の中で意思決定支援（支援付き意思決定）＝本人が意思決定主体と代行決定＝第三者が意思決定主体の違いを学べたことがとても勉強になりました。本人が何を言いたいのか？何を望んでいるのか？聞き・知るにより、入居者の意思決定を主体的にできるようサポートしていきたいと思っています。

佐藤ひかり

結の実は地域の障害がある人々や子どもたち、高齢者などに対して、必要とする福祉サービス等を提供し、社会的・経済的自立を支援するとともに、社会参加促進に関する事業を行い、障害の種類・程度に関わらず、すべての人々がゆたかに暮らせる地域社会づくりと福祉の増進に寄与することを目的としています。

グループホーム運営方針

- ① 障がいの程度にかかわらず、入居者が健康で自立した生活が営めるように支援を行なう。
- ② 入居者の個性を理解し、それぞれの入居者が今まで営んできた生活環境を尊重した支援を行なう。
- ③ 入居者の人権を擁護し、就労や社会参加等充実した社会生活が送れるように、関係施設や地域と連携していく。

法人沿革

- 1988年9月 課外グループ「生活ホーム結」設立
- 1991年4月 通所訓練の場「通所施設・結」開所
- 1994年7月 宿泊訓練「生活ホーム・結」開始
- 2001年9月 「特定非営利活動法人 結の実」認可
- 2004年4月 男性ホーム「ホーム・まな」を開所
- 2008年3月 女性ホーム「ホーム・ゆい」を開所

まな ♪♪ リズムに乗って ♪♪

まなの入居者は音楽が好きな方が多いです。リズムに乗ってよく歌って踊っています。今回はそんな皆さんの様子を紹介したいと思います。

音楽好きでご機嫌な時いつもリズムを取っているのは Y さん。一番好きな曲は「めだかの兄弟」ですが、演歌やポップス、いろんな曲が好きで、音楽に合わせて歌うこともよくあります。



音楽好きなら N さんも負けていません。以前はよくカラオケにも行っていました。N さんも色々な曲をご存じで、YouTubeで曲をかけるとノリノリで歌ってくれます。大好きな青年学級でも歌声を披露している様子です。

お風呂でよく歌っているのが R さん。工藤静香や嵐、スマップなど、自分の世界に入って歌っています。お仕事出発前には、「雨雨フレフレ～」と天気関係なく楽しそうです。それを聞いて他の入居者も一緒に合唱しています。

小さな声でそっと歌っているのが M さん。耳を澄まして聞いていると、さりげなく歌声が聞こえてきます。賑やかなまなの中で、M さんが歌っていることに気が付いていない人も多いかもかもしれません。



♪ 🍧 ゆい 盆踊り 🍧 ♪

ゆいのすぐ隣には公園があります。猛暑の盛りの8月3日、その公園で町内会主催の盆踊り大会が開催されました。コロナ禍でしばらく中止されていたので、久しぶりの開催となります。ゆいのメンバーも毎年参加していた盆踊り…久しぶりにウキウキしながら参加した様子をレポートしました。

美味しいものに期待していたのは食べるのが大好き Y さん。何が売っているか色々散策した後 フランクフルトを買っていました。すぐ目の前のゆいに戻ってから美味しそうに食べて「楽しかったねー」とお話したくさんしていました。

踊りを楽しんでいたのは N さん。スタッフと一緒に輪の中に入って、楽しく踊っていました。踊った後は、かき氷を美味しく食べるのも忘れていませんでした。



おもちゃが当たるくじに夢中になっていたのは M さん。1等はお出なかつたけど、好きなおもちゃを選んで笑顔でした。「来年もまたくじをやりたい」としばらく皆さんに話をしていました。

S さんと T さんは盆踊りの雰囲気を楽しんでいました。S さんはゆいの初期メンバーで、盆踊りにも最初から参加しています。久しぶりと笑顔で散策していました。T さんは初めての参加でした。少し恥ずかしそうに散策してフランクフルトを買っていました。

ゆいのメンバーが戻った後も、外では町内の皆さんが踊る音や楽しい笑い声が聞こえてきました。夏を満喫できたひと時でした。来年も参加したいと思います。

9回目となる「紹介」ページですが、今回はホーム・ゆいで看護師として勤務している田中晶子さんをお願いいたしました。

今回結の実通信の作文を依頼され、始めはお断りしようかと思いましたが、私もこちらで5年程勤務し、めまぐるしく変わったことなど話そうと思いました。

医療現場を離れ、20年以上が経ちます。退職後は、保育園で10数年働き、ゆいに来た時は、赤ちゃんから大人の対応の違いに戸惑い、そして障がいの個人差が大きく、驚きました。支援の中で、「調理」は特に下手で、良いメニューが浮かびません。大人の入浴介助は、30年程携わることがなく、しかも個性が強い方々に戸惑い、支援を拒否された時には、「あーダメか」諦める日々でした。少しずつ受け入れられましたが、今も日々格闘しています。優しく、スムーズな対応されている皆さんを参考にさせていただいています。

でも、これらは平和な日々でした。「コロナ」で様相が一変してしまいました。入居者は、通所や外出で感染の危険にさらされ、隔離対応もしばしば必要となり、恐れていた感染者が出た時は、私の古い経験は活かされず、ましてや障がい者の対応は難しく、「これでよし」と言い切れないのが現状でした。

2階にいてほしくても降りてきてしまい、1階にいてほしくても昇ってきてしまう。こちらの都合で申し訳ないですが、感染を広めないためには大きな問題でした。楽しみの一つのガイヘル(ガイドヘルパー)、今では行けるようになりましたが、1階での食事が揃ってできない日が現在もあり、この対応は続きそうです。

このような日々の中で、私個人にも大きな変化があり、とても後悔しています。コロナ禍で母を亡くしました。面会もままならない中、ZOOMで衰えていく姿を見ることしか出来ない。コロナにかかり、最後のお別れもできず無念でした。ゆいへ出勤し、気が紛れますが、支援、爪切り等していると、こんなお世話をもっとしたかったとつくづく思います。

ゆいで起こる入居者の転倒、もめごと等問題はつきません。加齢に伴って、増々その傾向が強まります。残念ですが、これは日々実感しています。ゆいで生活している間は、できるだけ穏やかに仲良く過ごして行ける様、見守っていただければと思います。

障害者グループホーム従事者基礎研修受講報告

今回の障害者グループホーム従事者基礎研修を受けて、私は障がい福祉サービスについて多くのことを学べたような気がします。地域で暮らす場としてのグループホームの役割というものが何なのかがよくわかる基礎研修でした。

グループホームの暮らしとは集団生活ではなく、共同生活であり、個の生活であるというフレーズがとても印象に残っています。利用者に対する必要な支援と利用者の自己決定の部分を上手く見極めて両立させて、安全安心で自分らしい生活を提供するというのが、グループホームの役割として大事だということを学びました。

そして、日本の障がい者のグループホームの歴史というのはまだまだ浅いことも基礎研修で学ぶことができました。障がい者のグループホーム事業所は、近年増加傾向にあるとのことなので、日本でも少しずつ障がいに対する理解というものが進んでいて、障がいのある人たちが暮らしやすい社会というのが、着実に実現してきているのだと私は思います。

石倉大誠

事務局からのお知らせ

- ☆ 2024年度第2回理事会が、2024年8月31日に開催されました。今理事会では、2024年度第1四半期会計報告について、職務権限規程の改正について討議いたしました。討議の結果、全会一致で承認されました。
- ☆ 賛助会員制度の導入について・・・現在結の実では、議決権を持った会員のみ制度として存在しています。2025年度総会において、定款の変更を行い、会員と賛助会員を分けることを現在検討中です。純粹に結の実の活動に賛同し、賛助会員の意味合いで会員となったださっている皆様が多くいらっしゃるため、その方々には賛助会員に移行していただくようお願いしていく予定です。この改正を行うためには、今まで以上に結の実の活動をホームページや通信などで公開し、多くの方の共感を得られるような努力が法人に求められていると考えております。この制度改正については、皆様に引き続き丁寧な説明を行っていきたいと思います。

特定非営利活動法人結の実の法人理念や事業運営方針の趣旨にご賛同いただき、ご支援して下さる方々の入会及び寄付をお願い申し上げます。

年会費 2000円

郵便振替口座 00110-2-355729

口座名義

特定非営利活動法人結の実

- * 郵便振替用紙に、お名前・住所・電話番号・〇〇年度会費として、のご記入をお願いします。
- * 入会時期に関わらず、会員資格は年度ごとの更新となります。

寄付 2名 （2024年6月21日～2024年9月30日）

青木毅 明滝光子

2024年度 更新会員 40名 （2024年6月21日～2024年9月30日）

明滝光子 坂口聖子

2024年度 新規会員 8名 （2024年6月21日～2024年9月30日）

北澤正博 北澤乃里子

（順不同・敬称略）

☆ご支援まことにありがとうございました☆

結の実通信 137号

『編集』特定非営利活動法人結の実 事務局

〒194-0046 東京都町田市西成瀬 1-39-13

TEL/FAX : 042-725-8693

E-mail : yuinomi@star.ocn.ne.jp

ホームページ <https://yuinomi.org>

『発行』特定非営利活動法人 障害者団体定期刊行物協会

〒157-0072 東京都世田谷区祖師谷 3-1-17 ヴェルドゥーラ祖師谷 102号室

TEL : 03-6277-9611 FAX : 03-6277-9555 定価 50円